

平成 28 年 度

## 小学校教員資格認定試験

### 教職に関する科目 (Ⅱ)

#### 図 画 工 作

##### 注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 28 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。  
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。  
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。  
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから 50分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ○ ⊗ ⊕ ⊙

以下の問いにおいて、「小学校学習指導要領」とは、「『小学校学習指導要領』（平成 20 年文部科学省告示第 27 号）第 2 章第 7 節 図画工作」を指し、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』とは、「文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（平成 20 年 8 月）」を指すものとする。

問 1 次の文は、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』に示されている「図画工作科改訂の趣旨(i) 改善の基本方針」として述べられているものの一部である。空欄 ① ~ ③ に入る適切な語を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

① をはぐくむ ② 体験の充実を図りながら、形や色などによる ③ を通して、生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする ② や美術の働きを実感させるような指導を重視する。

〔語群〕 A 個性      B 情操      C 図画工作  
D 制作      E 造形      F 創造性  
G コミュニケーション

ア ① B      ② C      ③ G  
イ ① F      ② E      ③ G  
ウ ① A      ② C      ③ E  
エ ① F      ② D      ③ E

問 2 造形遊びについて述べたものとして正しいものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 造形遊びは遊びのもつ創造的な性格を学習として取り入れた活動である。
- イ 造形遊びは現代美術の手法を子供向けに修正したものである。
- ウ 昭和 52 年版小学校学習指導要領図画工作科では、造形遊び(造形的な遊び)は導入されていなかった。
- エ 〔共通事項〕は造形遊びの総合的な造形学習の中で学ぶものである。

問 3 次の文は、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』に示されている「教科の目標」における「感性を働かせながら」について述べられているものの一部である。空欄 ① ~ ④ に入る適切な語を下の【語群】から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

「感性」は、様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、 ① と一体化して ② をはぐくむ重要なものである。表現及び鑑賞の活動においては、児童は視覚や触覚などの様々な感覚を働かせながら、自らの ③ な行為を通して、形や色、イメージなどをとらえている。これを手掛かりに児童は発想をしたり、技能を活用したりしながら、自他や ④ と交流し、主体的に表現したり、よさや美しさなどを感じ取ったりしている。「感性を働かせながら」とは、このような児童の感覚や感じ方、表現の思いなど、自分の感性を十分に働かせることを示している。

【語群】 A 想像性      B 世界      C 創造性  
 D 知性      E 主体的      F 能動的  
 G 理性      H 社会      I 美的感受性

ア ① G      ② C      ③ E      ④ B  
 イ ① I      ② A      ③ E      ④ H  
 ウ ① D      ② C      ③ F      ④ H  
 エ ① D      ② G      ③ F      ④ B

問 4 「小学校学習指導要領」における【第1学年及び第2学年】の「2 内容 A表現 (1)材料を基に造形遊びをする活動」に示された内容として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。
- イ 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。
- ウ 感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。
- エ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。

問 5 次の文は、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』に示されている「図画工作科の内容」における「各領域及び〔共通事項〕の内容」の〔共通事項〕について述べられているものの一部である。空欄 ① ~ ③ に入る適切な語を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔共通事項〕で示している内容は、対象に対して感性を働かせる児童の ① な姿であるとともに、形や色、イメージなどを ② のように使いながら ③ や社会と豊かにかかわるコミュニケーション能力の基盤になるものといえる。

〔語群〕 A 生活            B 他者            C 友達  
           D 具体的            E 主体的            F 情報  
           G 道具            H 言葉            I 創造的

ア ① E        ② F        ③ C  
 イ ① I        ② H        ③ A  
 ウ ① I        ② G        ③ B  
 エ ① D        ② H        ③ A

問 6 「小学校学習指導要領」における〔第3学年及び第4学年〕の「2 内容 A表現 (2)感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動」に示された内容として誤っているものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。
- イ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。
- ウ 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。
- エ 表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。

問 7 「小学校学習指導要領」における〔第 5 学年及び第 6 学年〕の「2 内容 B鑑賞 (1)親しみのある作品などを鑑賞する活動」に示された内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。

イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。

ウ 身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高めること。

エ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。

問 8 日本の色彩教育について述べたものとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 図画工作科では日本工業規格 (JIS) に採用されている修正マンセル表色系に基づいて色を教えなければならない。

イ 平成 20 年版小学校学習指導要領図画工作科では、色彩は「A表現」だけで学習し、「B鑑賞」では扱わない。

ウ 日本でつくられた PCCS (日本色研配色体系) の色相環は色彩調和を特色としている。

エ (共通事項) では、色の名前や混色などの知識をあらかじめ学習する。

問 9 日本の美術教育史について述べたものとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 太平洋戦争中の美術教育 (芸能科図画・芸能科工作) では、明確な目的のもと戦時色の強い題材が扱われていた。

イ 山本 <sup>かなえ</sup> 鼎が主張した「自由画教育」は新潟県から広まった。

ウ 大正時代初期にバウハウスの基礎教育が日本に導入された。

エ 鉛筆画は岡倉覚三が、毛筆画は小山正太郎が推奨した。

問10 子供の描画の分類を示したA～Fについて、発達段階の順に示したものとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

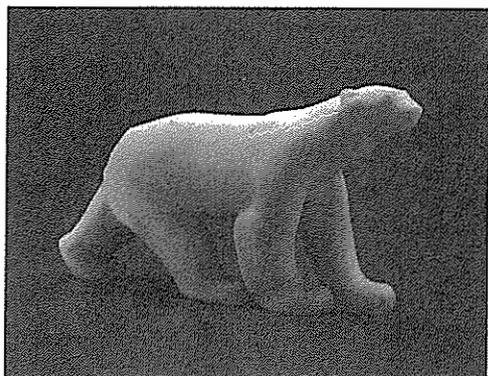
- A 図式期            B 初期写実の時期            C スクリブル期  
D 前図式期        E 疑似写実の時期            F 象徴期

- ア C → D → A → E → B → F  
イ F → C → D → A → E → B  
ウ C → F → D → A → B → E  
エ D → A → C → F → E → B

問11 減法混色を示す実例として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 赤，緑，青などの色フィルターを重ねたものに，1台のプロジェクターから白色光を投射して透過させ，スクリーンに映る色を見た。  
イ 色が異なる縦糸と横糸で織られた布を遠くから見たり，拡大鏡で見たりした。  
ウ 様々な色が映し出された液晶テレビの画面を遠くから見たり，拡大鏡で見たりした。  
エ 表面を2色の扇形に塗り分けた円盤を高速に回転させ，色を見た。

問12 次の図(①~④)は、20世紀の彫刻作品である。これらの彫刻の作者名を下の「語群」から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。



①

アレクサンダー・カルダー  
「矛槍持ち  
(Le Hallebardier)」  
(Hanover, Sprengel  
Museum)

②

ヘンリー・ムア  
「横たわる人体  
(Reclining Figure: Prop)」  
(ブリヂストン美術館)

③

リチャード・セラ「スネーク  
(Snake)」  
(Guggenheim Bilbao  
Museum)

④

②~④は著作権者の承諾得られず不掲載

- 〔語群〕 A ヘンリー・ムア                      B リチャード・セラ  
          C フランソワ・ポンポン                D ニキ・ド・サンファール  
          E アンソニー・カロ                      F イサム・ノグチ  
          G アレクサンダー・カルダー

- ア ① D        ② G        ③ B        ④ E  
イ ① C        ② G        ③ A        ④ B  
ウ ① E        ② F        ③ A        ④ B  
エ ① C        ② A        ③ D        ④ F

問13 次の文章は日本で発表された美術作品に関わる出来事について述べたものである。①～④の出来事に関する作者名を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 第6回白馬会(1901年)に出品した《裸体婦人像》が、官憲の取締りによって、裸婦の下半身が額縁ごと布で覆い隠された。
- ② 2014年に愛知県美術館で開催された〈これからの写真〉展で展示された作品について、県警がわいせつ物の陳列に当たるとして撤去を求めたことにより、半透明の紙で展示作品を覆うなどの変更を行った。
- ③ 昭和天皇の肖像を含む連作版画《遠近を抱えて》は、展示された富山県立近代美術館に収蔵されたが非公開となった後に売却され、作品が掲載された展覧会図録は破棄された。
- ④ 千円札を模した作品が法に抵触するかどうか裁判で争われ、上告棄却により有罪が確定した。

〔語群〕 A 黒田清輝            B 鷹野隆大  
          C 大浦信行            D 会田誠  
          E 赤瀬川原平         F 篠山紀信

- ア ① A        ② B        ③ D        ④ C
- イ ① A        ② B        ③ C        ④ E
- ウ ① B        ② F        ③ D        ④ E
- エ ① B        ② F        ③ C        ④ D

問14 図画工作で木材を切るために使われる、一般的な両刃のこぎりとその使い方について述べたものとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 基本的に両刃のこぎりは板などを真っ直ぐに切るための道具である。
- イ 横挽きの刃にあさはついており、縦挽きの刃にあさはついていない。
- ウ 材料の一部を切り落とす時、最後はのこぎりを立ててゆっくりと引く。
- エ 両刃のこぎり一般的な合板を切るときは、表面の木目に関係なく、横挽きの刃を使う。

問15 描画材について述べたものとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 粉絵の具を溶く際は、原則として、容器に入れた絵の具に少しずつ水を加えて練っていく。
- イ クレヨンには、顔料と硬質ろうや流動パラフィン等を加熱溶解して混合し、棒状に固めたものであり、クレヨンで描いた上に水彩絵の具を塗るとはじく。
- ウ パスは、クレヨンよりろう分が多く、伸びもよく、柔らかいので広い面も塗りやすい。
- エ 水彩絵の具には、透明水彩絵の具と不透明水彩絵の具がある。

問16 電動糸のこぎりについて述べたものとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 刃の付け替えの際は、必ず電源スイッチをオフにし、コードのプラグをコンセントから抜いておく。
- イ のこぎり刃は手前に向け、返し刃は下側にし、刃が下向きになるように取り付ける。
- ウ 刃を取り付ける際は、先に下部の締め具に差ししてしっかり止めてから、調整ノブを押し下げながら上部の締め具で止める。
- エ 本体のテーブルは、どのような作業の場合も、必ずテーブル角度調整ねじで水平になるようにする。

問17 「グッドデザイン賞」(1997年までは通商産業省主催の「グッドデザイン商品選定制度(通称Gマーク制度)」を含む)について述べたものとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「Gマーク制度」は、日本における外国製品の模倣という国際的な知的財産権に関する問題も背景となり、1957年(昭和32年)に設立された。
- イ 選定された製品などに貼り付けることができるGマークのデザインは、1964年の東京オリンピックのシンボルマークを手がけた亀倉雄策による。
- ウ 現在の顕彰では、建築物や製品だけでなく、サービスやソフトウェアなど有形無形を問わず、様々なものが対象となっている。
- エ 現在のグッドデザイン賞は、過去1年間に販売や発表されたものの中から審査員が調査して表彰している。

問18 次の文の空欄 ① ~ ④ に入る適切な語を下の[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

明治政府に擧<sup>へい</sup>聘されたお雇い外国人の ① は、明治時代に洋画に比べて力を失っていた日本画の復権を主張して、これに鼓舞された狩野芳崖は絶筆となった ② を描いた。① の意思を引き継いで東京美術学校設立に尽力した ③ は、中傷によって同校校長を辞した後に、横山大観らと新たな日本画の創出を目指して日本美術院を創設したが、彼らの生み出した描線のない新たな彩色画は ④ と擲<sup>や</sup>擯<sup>り</sup>された。

- [語群] A フォンタネージ      B ワーグマン      C フェノロサ  
 D 《悲母観音》      E 《騎龍観音》      F 《智・感・情》  
 G 九鬼隆一      H 岡倉天心      I 橋本雅邦  
 J 脂<sup>や</sup>派<sup>は</sup>      K 折衷様式      L 朦朧<sup>もろろ</sup>体<sup>たい</sup>

- ア ① B      ② D      ③ H      ④ J  
 イ ① C      ② F      ③ I      ④ K  
 ウ ① A      ② E      ③ G      ④ L  
 エ ① C      ② D      ③ H      ④ L

問19 19世紀フランスの画家ポール・セザンヌについて述べたものとして正しいものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 20世紀の革新的な美術に多大な影響を与え、後にシュルレアリスムの成立にも大きく寄与した。  
 イ 後期印象主義の画家に位置付けられ、激しい筆致と色彩によって内面的な感情を伝える画風が特徴である。  
 ウ 印象主義を批判的に継承し、対象の強い存在感や構築された空間構成を持つ絵画を目指した。  
 エ 「自然の中の全てのものは、方形と円錐と円筒によって形作られる。これらの単純な形態に基づいて描くことを学ばなければならない」という言葉を残した。

問20 工作で使用する接着剤について述べたものとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 合成ゴム系接着剤には有機溶剤を使用しているものが多いため、児童が使用する前に、成分や取扱い方法、使う材料に適しているかなどを、よく確認しておく。

イ 酢酸ビニル樹脂エマルジョン系接着剤は化学反応で硬化する接着剤で、二つに分けられた液剤をよく混ぜ合わせてから使用する。

ウ シアノアクリレート系接着剤は一般的に「瞬間接着剤」と呼ばれているもので、児童が使用する場合、取扱いには注意が必要である。

エ ホットメルト接着剤とは、熱(80℃～100℃)をかけて融かして接着させる接着剤のことであり、材質としてはエチレン酢酸ビニル(EVA)のような熱可塑性プラスチックが用いられる。